

# リモート経営 新興が先導

ファインディ  
ーT業務量を見える化

EDGE  
オンライン面談を改善

リモートワークの生産性を高めるスタートアップのサービスが相次いでいる。人材採用支援のファインディ（東京・品川）は在宅勤務が広がるIT（情報技術）エンジニアの業務を一覧管理するシステムを投入する。新型コロナウイルス禍で対面での会議が減り、コミュニケーションや人材育成の難しさは増す。新興勢は独自技術で「リモート経営」を先導する。

## 指示や育成難しさを緩和

「自己改善を図れる仕組みの要望が強かった」。ファインディの山田裕一朗社長は新システムを開発した理由をこう説明する。リモートで働くエンジニアの仕事量を自動で割り出し、共同作業に生かせるシステムを10月中旬に発売する。

営業成績などという指標がある営業職などに比べ、ITエンジニアは業務成果を定量的に表すのが難しい。ファインディのシステムはソースコード共有サイト「ギットハブ」を利用する。集まったプログラミング情報から貢献度や作業量、所要時間などを個人やチームごとに割り出す。業務量の変化をグラフ化し、実際の作業負担を分析する。

その結果、あるエンジニアについて「プログラムの試作にかかる時間が先週より長くなっていく」といった課題を抽出できることになる。職場の管理職は同僚や先輩への相談を促すなどして改善につなげる。

2020年4月から提供する試験版は約40社が導入した。そのうちの1社は、消費者調査のノウハウ（東京・新宿）の田中

組織運営の悩みは増えている。ハラスメント対策研修などを手掛けたイヤモンド・コンサルティングオフィス（東京）は「リモート環境では管理職の『聞く力』は重要になる」と指摘する。

・徳の5月の調査では、テレワークを実施する管理職の4割が、部下との接し方で1年前よりストレスが増えたと回答した。原因は「距離感の取り方（64%）」や「育成（48%）」などが続いた。こうした課題の解消に新興勢が乗り出す。オンライン面談の効果を高めようとするのはEDGE（エッジ、東京・徳）だ。上司と部下の話し合いの時間の比率や声の大きさ、抑揚などを音声解析ソフトが分析。それぞれ「怒り」「喜び」といった感情を定量的に示し、面談の改善点の発見や解決につなげる。

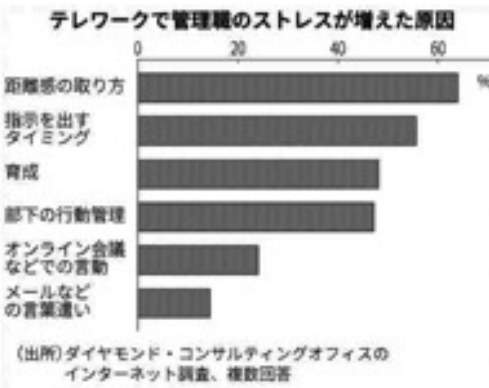
### 市場規模1.3倍

新人社員向けにオンライン研修を提供するアレイティブ（東京・徳）は、新たにテレワーク向けの10種類のメニューを追加する。制作用を相手にしたローカルオンライン形式で、オンライン営業のコツを学ぶといった内容だ。

「研修は座学が多いが、楽しい記憶がない」と苦境に残らないと佐藤太一代表。落ち着いた精神状態で事業や部門の課題を議論できるように、オンライン上でたき火を見ながら同僚らと語り合えようという。仲間と一緒に取り組む（めいそ）する研修も始める。

テレワークを巡っては新たな動きが出てきており、NTTはコロナ禍の収束後も働き方の基本に据える方針を明らかにした。調査会社IDCジャパンによると、国内の実業企業の比率は21年に42%とコロナ前の2倍以上に増加。関連市場規模は25年に4968億円と、19年の1.3倍に膨らむ見通しだ。スタートアップの独自技術やサービスは、日本企業で急速に広がる働き方の変革を下支えしている。

（新田栄作、上原隆大）



企業名	主な取り組み
NTT	コロナ後もテレワークを基本に
富士通	原則テレワークとし、オフィス面積を2022年度末までに半分に
三井化学	月4日以上出勤すれば残りは在宅勤務が可能
ヤフー	社員の居住地域を午前11時までに出勤できる範囲に拡大。東京拠点を4割縮小
ディー・エヌ・エー	本社をシェアオフィスに移転、席数は4分の1に縮小